



みんなが集まる扶桑通り公園

けやきコミセンに隣接した扶桑通り公園は、北町 5 丁目で一番大きく、ケヤキの木陰で人々が憩います。コミセンや町会などのイベント会場となる時は大賑わい。9 月には、けやき納涼まつり、吉祥寺北町親交会の秋祭りが催されました。最近、公園のシンボル、コナラの大木がキクイムシの被害で樹液を流しています。この樹液に蝶や蜂、甲虫類などが集まり、虫たちにも人気の場所となっています。(北町五丁目町会)

町会のバス研修で親睦と学びの一日を

7 月 6 日(日)32 名で「埼玉ピースミュージアム」「こども動物自然公園」へ行きました。資料館には復元された戦時下の住宅や教室、防空壕があり戦争体験者の証言ビデオを通して戦争の悲惨さと平和の尊さを改めて痛感しました。150 種の動物が暮らす自然公園ではクオッカやスナネコなど希少動物との出会いがたくさん。ポニーの乗馬や牛の乳搾り、ヤギの餌やりなど間近で触れ合える時間を楽しみました。(緑町三丁目町会)

活 動 報 告

● 2025 年度 運営協議会委員

会 長／高橋 豊（北町五丁目町会）
副 会 長／興枳 信子（武蔵野緑町パークタウン自治会）
会 計／宮田 尚子（武蔵野緑町パークタウン自治会）
大島 純子（緑町三丁目町会）
会計監査／島森 和子（北町五丁目町会）
村井 寿夫（北町五丁目町会）
萩尾 昌枝（緑町二丁目第 2 アパート自治会）
押元 綾子（緑町三丁目町会）
大平 高司（緑町三丁目町会）
関口 道美（環境部長）
朝生 剛（環境部参事兼ごみ総合対策課クリーンセンター担当課長）

会長挨拶 クリーンセンター運営協議会会長 高橋 豊

クリーンセンター運営協議会は、クリーンセンターでごみ処理が適切に行われているか、周辺地域の安全を守る監視役として、昭和 59 年(1984)、周辺 3 団体(現在は 3 地域 4 団体)と市により、発足しました。今後も適切に稼働するよう、しっかり役割を果たしていきたいと考えております。市民のみなさんのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

＊編集後記＊ 1860 年代に発明されたプラスチックは、現在私たちの生活に欠かせないものとなっています。委員研修でプラスチックごみのリサイクル施設を見学して、「もしこの世にプラスチックが無かったら？ このまま適切に処理せず廃棄し続けたら？」あらためて持続可能な未来社会へ想いを馳せました。(萩尾昌枝)

大きく育った緑を大切に

武蔵野緑町パークタウンは、建て替え前の団地の入居(1957 年)から今年で 68 年となりました。入居当時は砂ぼこりが舞い、樹木も小さく建物がすべて見渡せていたといえます。大きく育った緑を残して建て替えが行われ、移植樹のけやきに囲まれた芝生広場では、保育園の小さな幼児から小学生までがかけまわって遊びます。猛暑と強い陽射しから私たちを守ってくれているこの環境を大切にしていきたいと思っています。(緑町パークタウン自治会)

今年も和やかに茶話会を開催

7 月 12 日(土)、集会室で自治会主催の茶話会が開かれました。参加者は 16 名。新しく入居された方も出席して、みんなでおいしいお茶とお菓子をいただきました。話題は最近のお天気から災害対策まで、井戸端会議のような中からコミュニケーションの輪が広がり、自治会の連携が強くなると感じます。(武蔵野緑町二丁目第 2 アパート自治会)

● 2024 年度 運営協議会 決算 単位＝円

収 入		支 出	
市 補 助 金	1,000,000	事 務 費	6,710
その他の収入	128,976	広 報 費	278,729
		事 業 費	823,408
		会 議 費	0
		備 品 費	0
		交 際 費	3,219
		予 備 費	0
計	1,128,976	計	1,112,066
		市への返却金	16,910

● 2025 年度 運営協議会 予算 単位＝円

収 入		支 出	
市 補 助 金	1,000,000	事 務 費	10,000
その他の収入	60,000	広 報 費	270,000
		事 業 費	760,000
		会 議 費	5,000
		備 品 費	10,000
		交 際 費	5,000
		予 備 費	0
計	1,060,000	計	1,060,000

編集・発行／武蔵野クリーンセンター運営協議会

〒180-0012 武蔵野市緑町 3-1-5
武蔵野クリーンセンター内
電話：0422-54-1221

●武蔵野市ホームページ

<https://www.city.musashino.lg.jp/>

＊この広報は、再生紙を使用しています。

CONTENTS

- P 1… **委員研修 報告** 使用済みプラスチックのリサイクル事業
- P 2… 「プラなし」博士 海洋プラスチック汚染を語る
- P 3… 屋上ベジタブルガーデンで 地球環境を想う
- P 4… まちのできごと 活動報告



武蔵野クリーンセンター 運営協議会 だより 87

武蔵野クリーンセンター運営協議会とは

1984 年施設建設時に地域住民の安全と権利を守るために設置された周辺 3 地域 4 団体が参加するクリーンセンター運営の監視役。

委員研修 報 告

使用済みプラスチックのリサイクル事業

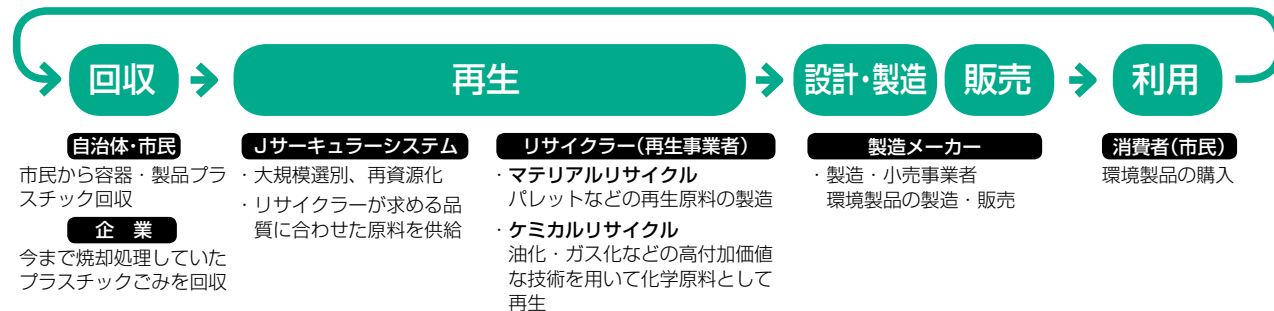
技術を結集した選別・処理施設

令和 7 年 7 月 8 日(火)、「川崎スーパーソーティングセンター」を見学しました。

川崎市の京浜臨海工業地帯の中心にあり、運営する株式会社 J サーキュラーシステムは、3 つの株式会社(東日本旅客鉄道・JR 東日本環境アクセス・J&T 環境)が出資し、連携している会社です。使用済みプラスチックの回収・リサイクルの技術など、それぞれのノウハウを共有し効率的な処理を行います。列車や駅から出る産業系と近隣自治体(川崎市一部地区と大田区)の家庭から出る家庭系の使用済みプラスチックを受け入れ、リサイクラー(再生事業者)が利用し易い材料を製造しています。

回収された使用済みプラスチックは、高度選別ラインとケミカルリサイクル原料製造ラインを使い、機械による破碎・選別に加え手作業による選別もされます。この 2 つの設備で、1 日当たり最大 200 t の処理能力で、再生ペットボトルや燃料などの材料となる原料を製造しています。リサイクルできなかった残渣は受け入れ量の約 10% で、焼却処理されます。

〈J サーキュラーシステムの目指すプラスチック資源循環〉



広い工場にある設備。左の四角い荷物は、プラスチックを圧縮したプラベール。空調もない猛暑の中、臭いもあり厳しい環境でした。

ていねいに分別・処理して良質な原料に

●高度選別ライン

回収物を分別・異物除去・洗浄し良質な原料にする設備。破碎機で収集物を粉碎し、揺動選別機で形状や比重の違いを利用して硬質と軟質のプラスチック、PP(ポリエチレン)フレークに分け、光学選別機によって種類を選別、さらに手作業で不適合物を取り除き、軟質と硬質のプラスチックは圧縮しプラベール

に、PPフレークは樹脂の原料にして、新たな製品を造るリサイクル工場に送ります。

●ケミカルリサイクル原料製造ライン

使用済みプラスチックを化学原料として再利用するための前処理システム。回収された不用品を二軸破碎機で粗く破碎し、磁選別機で鉄、アルミ選別機でアルミを取り除いた後、一軸破碎機で細かくし、風力選別機で重い異物を除去、最後に成形機で一定のサイズにして、ケミカルリサイクルの原料が造られます。

資源のリサイクル

ケミカルリサイクル原料製造ラインで、プラスチックを化学的に分解し、新たな化学原料として再生することで、より高度な資源循環に貢献しています。再生原料や固形燃料は再生品製造メーカーの要望に応じて供給販売を行っており、これまで選別できず焼却処理していたものを資源化することでCO²削減につながります。

現在使用済みプラスチックが地球環境に及ぼす負荷が深刻化し、大問題となっています。暮らしの必需品であるプラスチック製品の利用について、使用済みプラの最適化を図り持続可能な資源の循環を考えることは重要な課題であると再認識しました。

武蔵野市消費生活講座

「プラなし」博士 海洋プラスチック汚染を語る

6月19日に武蔵野商工会館で海洋プラスチック汚染に関する講演会がありました。講師は、1年に1〜3ヶ月海上に出ているという「プラなし」博士こと中嶋亮太氏。プラスチック汚染の現状からプラスチックを減らすアイデアまで、とてもわかりやすいお話でした。

プラスチック？ どこにでもあります

プラスチックは、容器はもとより生活用品から洋服、住宅建材まで、あらゆるものに使われています。2019年のプラスチック生産量は4億5,980万t、世界人口77億4千万人を体重60kg換算すると同等の4億6,500万tになります。同年のプラスチック廃棄量は、生産量の77%にあたる3億5,300万t、3分の2が5年以内にごみになっています。

深海にも大量のプラスチック

中嶋氏が所属する海洋研究開発機構(JAMSTEC)は海洋調査船8隻を所有し、地震・津波観測監視や地球シミュレーターの運用を行う研究機関です。「しんかい6500」による調査では、駿河湾の水深2,000mで大量のプラスチックが確認されました。全世界で海に流出したプラスチックは3,040万t、海表面のプラスチック量はその10%、320万tと推計され、残りの90%が深海に沈んだとすれば、海洋プラスチックの清掃は不可能だということです。

海底に使い捨てプラスチック

印象深かった話は、レジ袋が深海にも浮遊しているということ。海表面のレジ袋が藻などの付着で降下し、駿河湾の海底には1km²に約7,000個が漂っており、レジ袋の削減は意味があることとわかりました。さらに40年前の容器類や半世紀前の空き缶内部のプラスチックコーティングなどが採集されました。生分解プラスチックの90%は分解に60℃の温度が必要なため、海中では劣化しません。海洋生態系への影響はさまざまあり、食物連鎖により濃くなったプラスチックの化学物質は人体に巡ってきます。中でも残留性有機汚染物質(POPs)に、今後注目していく必要があります。

この問題、どうやって解決？

プラスチックに関する怖い話の最後に、4つの解決策を話されました。

①完全に回収・処理する、②蛇口を閉める、③とことん再利用する、④海の掃除をする

このうち私たちにできることは「②蛇口を閉める」こと。中嶋氏は「リサイクルは2回までしかできない」としており、使用量の削減が急務であると実感しました。

中嶋亮太氏：国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)・主任研究員・グループリーダー。生物海洋学者。工学博士。サンゴ礁や深海生態系の保全に関する研究をしてきたが、近年では海洋のプラスチック汚染について研究している。運営するウェブサイト「プラなし生活」では、プラスチックごみ問題やプラスチックを減らして生活するヒントを発信している。
著書／「海洋プラスチック汚染」(岩波書店)、「海洋ごみ問題を考えよう！」(教育劇画・監修)、「暮らしの図鑑 エコな毎日」(翔泳社)他
「プラなし生活」のホームページ：https://lessplasticlife.com

屋上ベジタブルガーデンで地球環境を想う

取材協力／クリーンむさしのを推進する会
むさしのEサービス(荏原環境プラント株式会社)

ベジタブルガーデンの取り組み

クリーンセンター屋上のベジタブルガーデンは、平成29年(2017)建て替えの際にできました。クリーンセンターを運営する荏原環境プラントが市民団体「クリーンむさしのを推進する会」に委託して、四季折々の野菜を栽培しています。

周辺などの市民から集めた生ごみ堆肥を使い、安全で安心な野菜を育て収穫することで、「食」を通じた資源の循環の発信を図っています。収穫する野菜は、収穫体験やワークショップなどのイベントで市民に還元しています。

農作業をしているのは、「クリーンむさしのを推進する会」を中心に登録制で、最初は約25名でしたが、一時はコロナウイルス感染防止のため制限され、現在続けて作業できるメンバーは15名ほど。年間スケジュールを立て、毎週月曜と金曜の午前に作業します。

生ごみ堆肥のしくみ

周辺地域を中心に現在60世帯が登録し協力しています。登録した方に抗酸化バケツを配布し、生ごみをバケツに保管して、金曜と土曜の朝10〜11時30分に敷地内の堆肥化ボックスに届けてもらいます。

堆肥化ボックスは通気性の良い木製の箱で、中に腐葉土・牛糞堆肥・ぬかなどを混ぜて床が作ってあります。床の中にはたくさんの微生物が入っていて、適度な水と酸素を混ぜると活発になり、ごみを分解し、約2〜3ヶ月で堆肥になります。この堆肥ボックスから昨年度は216.7kgの生ごみ堆肥ができました。



グリーンピースの支柱を立てる作業。
ベジタブルガーデンは広さ約150㎡、丈夫な防水性のシートの上に深さ20cmの土壌が敷かれています。土は、軽量土壌(黒土の2分の1の比重)を半量に、黒土、腐葉土、生ごみ堆肥、牛糞堆肥、カキ殻石灰を混ぜて使用しています。



クリーンセンター敷地にある堆肥化ボックス。
生ごみを入れたり、混ぜたり作業しやすいように、前の板が取りはずせるようになっています。できた生ごみ堆肥を右側の箱で約2ヶ月寝かせ、ふるいにかけて屋上に運びます。



親子で参加する春の収穫体験の様子。

気候変動と今後の課題

ベジタブルガーデンができてから8年が経過し、状況が変化して見直しの時期が来ています。

まず、以前より気候が変わってきました。作業している方々に何うと、地球全体の気候変動をこの屋上で実感するそうです。春と秋が短くなり、土壌の温度も上がってきており、野菜の生長にも影響があります。イベントに使うために収穫時期を考えて栽培しますが、なかなか難しくなっています。今年は6月からとても暑くて作業が大変でした。作業は週2日月曜と金曜の朝1時間ですが、危険な暑さのため7・8月は休み、9月から再開しました。今後、気候がどうなるのか、農作業をどのように行うか、とても心配です。

また、作業メンバーが高齢化してきており、今後続けていくためには新しいメンバーが必要です。野菜の栽培作業に興味のある方は、武蔵野市民であれば誰でも登録して参加できます。野菜栽培のノウハウも教えてもらえます。

今までの経緯を踏まえ、クリーンセンターのベジタブルガーデンの活動を市民に広く知っていただくためにも、持続可能な仕組みづくりが大切と考えています。

※登録などのお問い合わせは、クリーンセンターむさしのEサービスまで。(電話 0422-38-5516)